

# Economic Indicators

定例経済指標レポート

指標名: 貿易統計(2006年9月)

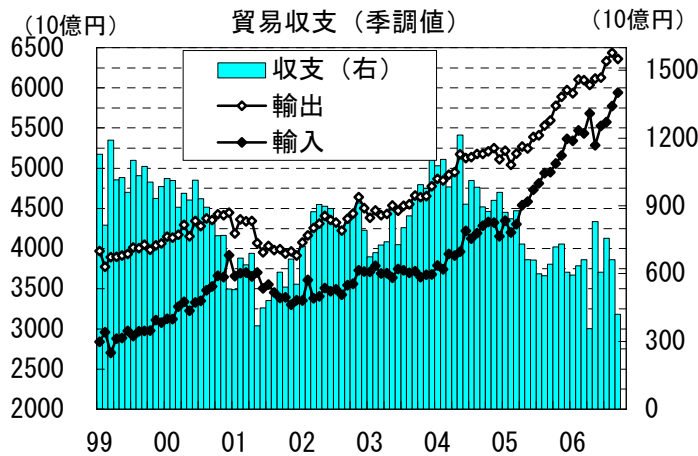
発表日2006年10月25日(水)

～7-9月期の外需寄与度は+0.4%Pとはっきりとしたプラスに～

第一生命経済研究所 経済調査部

担当 副主任エコノミスト 長谷山 則昭

TEL: 03-5221-4525



(出所: 貿易統計・財務省)

(10億円)	季調値			原数値
	貿易収支	輸出	輸入	貿易収支
05年9月	642	5592	4951	949
10月	718	5776	5058	818
11月	731	5891	5160	594
12月	606	5971	5365	908
06年1月	593	5934	5340	-354
2月	634	6104	5470	947
3月	662	6095	5433	968
4月	357	6038	5681	650
5月	831	6117	5287	381
6月	606	6131	5525	805
7月	757	6331	5574	858
8月	661	6435	5774	196
9月	420	6361	5941	1014

(出所: 貿易統計・財務省)

(前年比、%)

	輸出金額	輸出価格	輸出数量指数				輸入金額	輸入価格	輸入数量指数			
			全体	対米	対EU	対アジア			全体	対米	対EU	対アジア
05年9月	8.8	7.4	1.4	3.5	▲ 3.3	▲ 2.9	17.6	13.3	3.9	5.0	4.8	3.7
10月	8.0	5.5	2.4	3.8	▲ 1.7	▲ 1.4	17.9	15.3	2.3	▲ 13.9	0.5	7.3
11月	14.7	7.6	6.6	4.7	▲ 0.7	▲ 4.3	16.7	19.3	▲ 2.1	▲ 2.3	▲ 1.0	0.3
12月	17.5	10.6	6.2	6.4	▲ 1.9	3.4	27.4	24.8	2.1	10.8	▲ 1.2	3.8
06年1月	13.5	5.6	7.5	12.2	4.4	▲ 1.1	27.0	18.7	6.9	2.6	0.2	10.0
2月	20.7	5.3	14.6	8.5	1.6	15.9	30.3	23.7	5.4	6.9	5.7	3.9
3月	18.0	6.2	11.1	8.0	5.7	12.1	25.3	20.3	4.2	▲ 7.0	0.6	8.0
4月	11.3	4.7	6.3	8.7	▲ 0.2	6.7	20.2	14.7	4.8	▲ 15.2	▲ 2.1	11.2
5月	18.9	6.6	11.6	15.1	8.1	15.2	18.0	13.1	4.4	5.3	2.8	9.1
6月	14.5	5.3	8.7	2.5	9.3	8.0	18.3	13.4	4.3	▲ 0.2	▲ 3.8	9.5
7月	14.2	7.8	5.9	8.9	1.1	6.5	16.9	12.3	4.0	▲ 6.2	2.2	10.9
8月	17.6	5.0	12.0	13.0	6.9	10.5	16.2	13.6	2.2	6.4	2.8	4.4
9月	15.3	6.7	8.0	7.5	7.1	13.3	16.9	14.1	2.5	2.5	▲ 2.3	7.5

## ○ 9月の貿易黒字額は前年比+6.9%と2ヵ月連続で増加

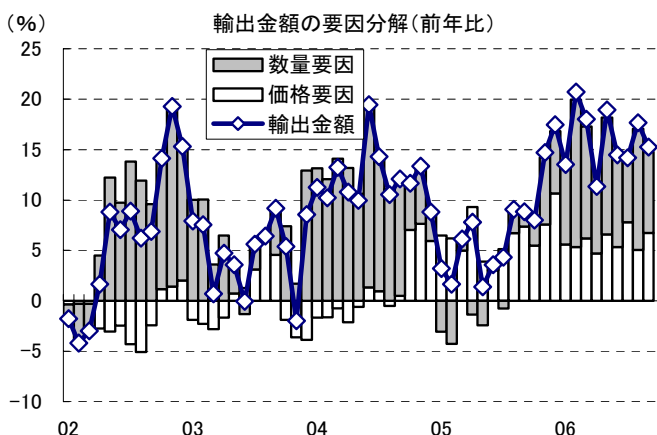
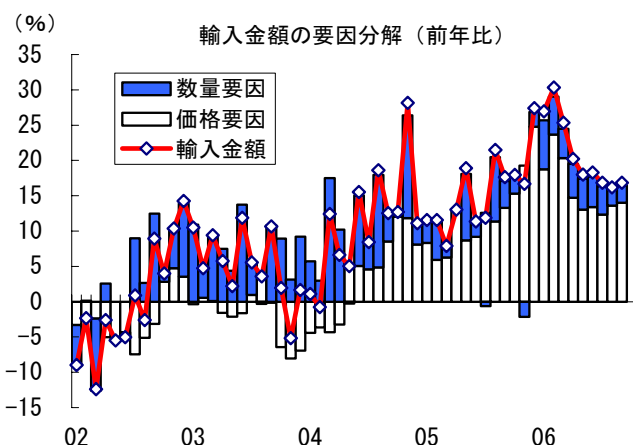
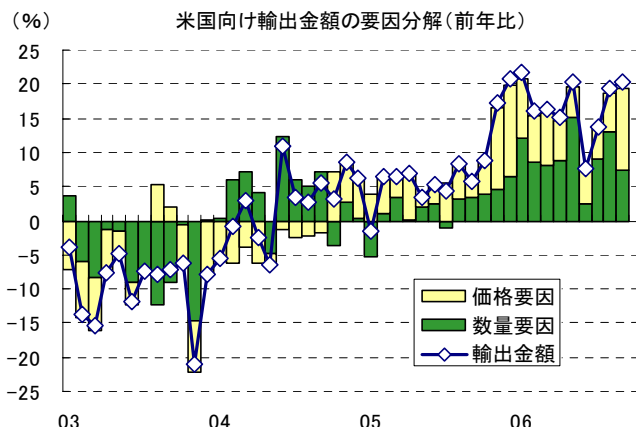
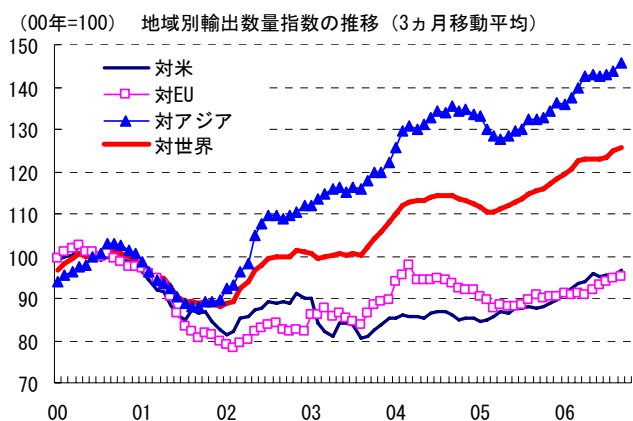
9月の貿易収支は1兆140億円(原数値)、前年比+6.9%となった。輸入金額は原油や非鉄金属等が増加し、前年比+15.3%(前月同+17.6%)となったが、輸出金額も自動車、鉄鋼、半導体等電子部品が増加したことから前年比+16.9%(前月同+16.2%)となった。輸入金額が前月から伸びが小幅鈍化した一方、輸出金額の増加ペースが拡大したことから、貿易黒字額は2ヵ月連続の増加となった。

## ○ 米国向け輸出は伸びが鈍化したものの、堅調持続

輸出を数量ベースで見ると、前年比+8.0%(前月同+12.0%)となった。地域別にみると、米国向け(同+7.5%←前月同+13.0%)の伸びが鈍化したものの、アジア向け(同+13.3%←前月同+10.5%)、EU向け(同+7.1%←前月同+6.9%)については伸びが拡大した。アジア向けについては引き続き非鉄金属や鉄鋼などの素材関連品目が堅調だったことに加えて、半導体等電子部品の輸出(IC:前年比+47.7%

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。

←前月同+18.9%)も大幅に増加した。また、EU向けは自動車や一般機械の輸出が堅調だった。EU向け輸出が堅調な背景には、為替がユーロ高・円安となっていることも一因と考えられる。米国向け輸出についても、主力の自動車向け輸出(前年比+42.5%←前月同+39.1%)は好調であり、均してみれば堅調な推移が続いていると判断できる。米国経済の減速が鮮明になってきていることから、輸出にも下押し圧力が徐々に加かると考えられるものの、足元までは意外に堅調だ。為替が円安傾向で推移してきたことや自動車や一般機械等の競争力のある財輸出が堅調なことも、輸出を下支えしていると考えられる。

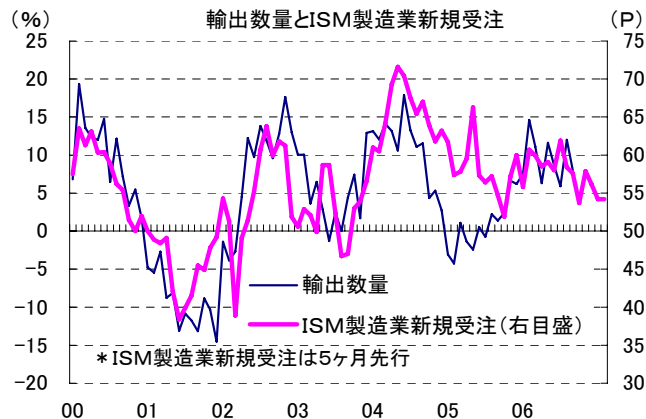
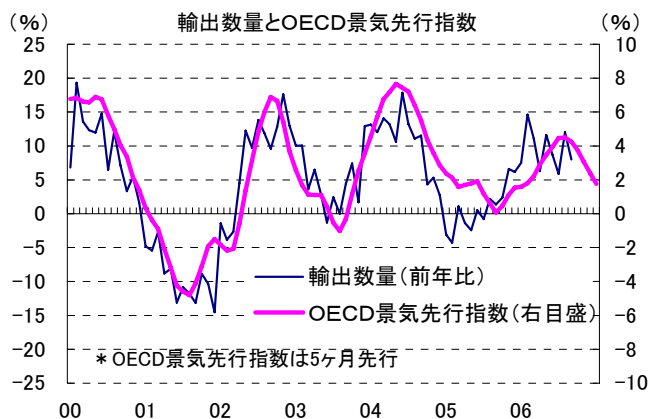


### ○ 輸出は堅調に推移しているが、先行きは徐々に減速する公算

米国景気の減速が鮮明になってきていることや輸出の先行指標であるOECD景気先行指数や米国のISM製造業新規受注がピークアウトしていること等を踏まえると、先行き輸出の増加ペースの鈍化は避けられない見込みである。ただし、米国景気はソフトランディングできると考えられること、中国における金融引き締め策も景気を失速させるには至らないことから、輸出は先行きも底堅く推移すると考えられる。また、輸入に関しても、個人消費が回復していることや設備投資が堅調なことから緩やかながらも拡大傾向が続く可能性が高い。

先行きの貿易収支については、原油価格および海外経済の減速ペースが重要となる。輸入については原油価格の上昇による価格面からの押し上げ寄与が大きい、その原油価格は足元まで下落傾向を辿っている。原油価格による前年対比でみた輸入金額への押し上げ寄与は、今後徐々に剥落していく公算が大きいと考えられる。米国景気の減速に伴って輸出金額の増加テンポも鈍化してくるとみられるため、目先の貿易収支は一進一退となることを想定しているが、原油価格の下落は貿易黒字額を押し上げる要因となろう。

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。



○ 7-9月期の外需寄与度は+0.4%ポイントを見込む

7-9月期のGDPベースの実質輸出入を試算すると、外需寄与度は+0.4%ポイントとなった。輸入が前期並みで推移する一方、輸出が増加することから、GDPは比較的是っきりしたプラスとなることを見込まれる。7-9月期のGDPについては、天候不順によって個人消費が芳しくない結果となりそうなことや、公共投資も大幅なマイナスとなる可能性が高いことなどから成長率が低調となる可能性も考えられるが、外需については7-9月期GDP成長率の下支え役となることが期待できる。(最終的な試算結果は10月31日にまとめる予定)

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。